

## 日本フンボルト協会 2018 年度第 1 回常務理事会議事録

出席者：櫻田嘉章、廣渡清吾、縣公一郎、伊藤眞（関東甲信越支部長）、西川伸一（関西支部長）、井田良、居城邦治（北海道支部長）、梶英輔、高橋宗五、高橋輝暁、高山佳奈子、種村眞幸、鏝田武志、関映子（事務局）（順不同）

日 時：2018 年 8 月 24 日 14 時 05 分より 17 時 05 分まで

場 所：東京ドイツ文化センター 2F 207 号室

### 議 題

#### （1）総会並びに留学説明会の結果報告（ニュースレター参照）

##### 1）留学説明会の総括的コメント

鏝田常務理事から総括的な報告があり、その後、意見交換があった。

- ・参加者は75名（フンボルト留学説明会のみ）
- ・参加者アンケートの分析の結果、参加者の本説明会についての情報獲得方法が、こちら側の予想とは必ずしも一致しないことが判明し、一層、効果的な周知・宣伝方法をさまざまな角度から検討することになった。
- ・文系、理系の参加者の間に、本説明会に関して、若干の意識の相違があり、今後、専門分科会のあり方なども含め、改善が図られることになった。
- ・本説明会に対するフンボルト財団からの支援金については、支援を申請する項目などを詳細に検討することになった。

#### （2）2019年度の総会・留学説明会について

- ・会場の手当てができたので、2019年6月2日（日）にドイツ文化センター（東京）にて開催予定。
- ・各種会議・企画の時間配分については、開催日の曜日（日曜日）の関係上、終了時刻を早める必要が生ずることも踏まえ、例えば、常務理事会と理事会を一括して行うなど、時間短縮の方策を含めて、具体的時間を次回常務理事会で検討することになった。
- ・プログラムは概ね例年通りとすることが確認された。
- ・留学説明会も同時に開催することになった。

#### （3）日独共同研究奨学金について

本奨学金について、以下の事項について審議・検討された。

##### 1）寄付金

- ・これまでの寄付金総額は、2,305,000円であるが、寄付金のために新たに開設した銀行口座を改めて会員に周知し、さらなる寄付金の増額を図ることになった。
- ・本奨学金基金の運用については、縣副理事長が担当することになった。

##### 2）応募についての問い合わせ

- ・日本フンボルト協会HPに Info-Adresse を掲載し、本奨学金についての各問い合わせは、複数の担当者に転送し、回答者が個人のアドレスから返信する方式をとることになった。
- また、本奨学金のドイツ語版要綱はフンボルト財団HPに掲載を依頼することになった。

### 3) 基金管理規程について

寄せられた寄付金をもとに二つの基金を設置することになったので、「日独共同研究奨学金基金」管理規程及び「財政安定化基金」管理規程を制定することにし、(案)を諮り了承される。「日独共同研究奨学金基金」の管理者には縣副理事長が指名され、「財政安定化基金」の管理者は規程上会計担当常務理事とされている。

### 4) 選考委員会の設置について

- ・同委員会委員長として、選考委員会規定(内規)に基づき、櫻田理事長から伊藤 眞副理事長が指名された。なお、委員長は、選考委員会統括として、申請の具体的選考から外れることも了承された。
- ・選考委員会委員については、以下の日本フンボルト協会会員が候補者として推薦され、選考委員委嘱の手続きに入ることが了承された。

#### 《理系》

阿澄 礼子(関東甲信越支部)、宇高 恵子(中四国支部)、須田 利美(東北支部)  
種村 眞幸(中部支部)、西川 伸一(関西支部)、山上 浩志(関西支部)

#### 《文系》

縣 公一郎(関東甲信越支部)、岡林 洋(関西支部)、香田 芳樹(関東甲信越支部)、  
林 香里(関東甲信越支部)、田口 正樹(北海道支部)

### 5) 企業・団体への寄付のお願い

本件については、以下のことが了承された。

- ・企業・団体からの寄付金は、協会の財政安定化基金には含めない。
- ・企業・団体からの寄付金を促すために、各分野で企業・団体に依頼しやすいと思われる会員を発起人として依頼書に掲載する → この件についての具体的方策については、WGで引き続き検討することになった。
- ・フライブルク会、ケルン会に所属する企業関係者にも支援を依頼する。

### 6) 審査規定

- ・本奨学金の公正な選考のために、利害関係が生ずる場合の措置(例えば、理事の申請禁止など)などについても今後、さまざまな角度から検討する必要があるが、まずは、既定方針で行い、申請状況などを見て、必要に応じて審査規定(内規)などを改善していく方針が了承された。

### (4) 財政について(高橋輝暁常務理事)

- ・高橋輝暁常務理事から、本協会の財政は、その大部分を会員納入の会費に頼っており、現状の会費納入状況(40%)では、近い将来、破綻する可能性が高いとの報告を受け、会費納入率を向上させる方策などについて意見交換がなされた。
- ・長年、会費未払いの会員については、会員資格停止などの措置も考えられるが、これは、本協会の位置づけ(同窓会組織であり、入会・退会手続きなどなく、従って、会費支払い義務もない)とも関係し、難しい問題もあるが、本協会の位置づけも含めて、抜本的な見直しの必要性については、常務理事の間で認識を共有した。

- ・会費納入率向上や本協会会員を増やすための方策（各大学連絡責任者体制を利用する）は、引き続き活用するが、協会および支部メーリングリストを見直し、新たな体制を構築することとなった。

(5) 議事録を本協会HPに掲載する件

- ・常務理事会議事録は、常務理事（書記担当）が作成したものを、理事長が、記載内容、文言などを修正・確認した上で、常務理事会に諮り、承認を受けたうえでHPに掲載するという手続きが改めて確認された。
- ・協会HPに掲載されていない過去の会議議事録については、早急に掲載することが確認された。

(6) その他

1) 関東甲信越支部主催の留学説明会の支援申請について

- ・関東甲信越支部主催で、例年、行っている留学説明会について、フンボルト財団本部に支援を要請する件については、本年度総会（京都大学）でも提起されたが、本会議で改めて意見交換がなされた。その過程で、そもそも支部主催の留学説明会と協会主催の留学説明会をどのように位置づけるか、また、支援を財団本部に申請をする場合どのような形すべきかなど、さまざまな課題などが明らかになったので、本件については、これらの問題点を整理しながら、引き続き検討することになった。

2) 支部報告

- ・北海道支部（居城邦治）
  - ・支部長を山田貞三先生から居城邦治先生に交代。
  - ・北海道という地理的条件もあり、会員が一堂に会するのは難しいため、支部活動は、主にメールを用いた形で行っている。
  - ・3月に総会と留学説明会を行った。本年度は、北見と室蘭を予定している。
- ・中部支部（種村眞幸）
  - ・秋に、総会、談話会・懇談会を開催予定。
  - ・談話会・懇談会の話題提供者としては、原正則先生（豊田工業大学）を予定。

3) 協会HPに関して（鏑田常務理事）

- ・理事長挨拶を、早急にHPに掲載することが確認された。この件については、櫻田理事長と広渡前理事長で調整することになった。

4) 次回常務理事会の開催日について

- ・次回常務理事会は、12月22日(土)、京都で開催予定。
- ・会場については、岡林洋常務理事（同志社大学）が担当し、同大学会議室などを軸に準備をお願いし、決まり次第、事務局に連絡することになった。

(以上)